

福音の園だより

【第十五号 二〇〇六年三月七日発行】

3501016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎ 049-230-1111

FAX 049-230-1112

私を見てちょうだい

看護師さん、いったい何を見ているの？ 私の何を見ているの？ あんたがたに見える私はただの不機嫌な顔をしたボケ老人でしょうねぼんやりとうつろな目をして つぎに何したらいいかもわからない老人でしょうね ぼろぼろこぼしながら食べ物や口に運び 「ちゃんと食べて」と大声で言われても 返事もしない老人でしょうね 看護師さんのしてくることに知らん顔をして 年がら年中、靴や靴下の片方を探している老人でしょうね お風呂や食事を嫌がってみても どうせ他にするかもしれないから 結局はいいなりになる老人でしょうね どう、この通りでしょう？ これがあんたがたに見える私でしょう？

さあ、看護師さん よおく目を開けて、私を見てちょうだい ここですと座って 命令されるままに動き 言われるままに食べる私が本当はどういう人間なのか教えてあげるから 私はね、一〇の歳には 両親や兄弟の愛に囲まれた子どもだった 娘盛りの十六には 愛する人に巡り会える日を夢見る乙女だった

二〇歳で花嫁となり 心弾ませて「この人に一生を捧げます」と誓ったのよ 二五には母親となつて 子どもたちのために安らぐ家庭を築こうとした

三〇のころは子どももすくすくと育ち 親子は永遠の絆で結ばれていたの 四〇になると子どもたちは一人前になり巣立っていった でも私は嘆かない 愛する夫がそばにいたから 五〇代は再び赤ん坊に囲まれ わが子とともに孫たちの成長を見守ったわ

そして暗い日々がやってくる 夫が死んでしまったから 行く末を案じて不安におののいたわ 子どもたちはそれぞれが 子育てに精一杯だったもの そこで、思いは過ぎ去った愛の日に飛んでいった

もう私は年老いてしまった 時の流れは情け容赦なく 年寄りをおろかに見せ 身体をぼろぼろにし 美しさも精気もどこかへ追いやつてしまふ そして、かつての柔らかな心は石のように閉ざされてしまった でもこの朽ちかけた肉体の奥には 若い娘がいまだに棲んでいるの

この苦しみに満ちた胸は今一度 過ぎ去った日々を思い出しては 喜びにはずみ、悲しみにふさぐ こうして、人生をいつくしみながら もう一度生き直しているの 駆け足で通り過ぎていった あつと言ふ間の年月を思うと 人生のほかなさをつくづく思い知らされる

そうなの、だから看護師さん よおく目を開けて、私を見てちょうだい ここにいるのは ただの不機嫌なボケ老人じゃない もっと近くに寄つて 本当の私を見てちょうだい！

著者不明 ロナルド・ダールステン寄稿（スコットランドのある老人病棟から見つけた詩）

定例スタッフ研修・会議の紹介

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤卓巳 毎月1回、全職員出席のスタッフ研修・会議を開催しています。また、日々、課題や必要に応じて午後のお茶の時間後、当日出勤者で自由な話し合いを持ち、連絡ノートに申し送っています。

年が改まった一月のスタッフ研修は、「あなたの笑顔が見たい！」という今年の合い言葉に因んだ研修でした。「私を見てちょうだい」（上・中段掲載）の詩や文章抜き書きなどを全職員に事前配布して、当日、感想や印象を自由に話し合う形式で行ないました。「もっと近くに寄って 本当の私を見てちょうだい！」は、十八名の利用者様お一人ひとりの心の叫びだと気付かせていただき、スタッフ一同「心に触れる優しい支援の実践」「希望への支援の実践」を心掛けてまいります。

生きがい活動・ピアノの会（毎週火曜日）紹介

笑顔に囲まれて

ボランティア Y・K

毎週火曜日の午前中に「ピアノの会」を担当させていただくようになって、早一年になりました。音楽体操や歌、ピアノ演奏と、皆様と一緒に楽しんで楽しませてもらっています。毎回、季節に合った曲を選曲し歌っております。大きな声で発声する事はもちろん、その歌にまつわる話等も楽しみの一つです。岸のすみれやれんげの花に、春を感じる花をあれやこれやと考えて話が弾みます。笑顔に囲まれた楽しいひと時を共有させていただき、私にとっても大事な時間をいただいております。

（川越市 在住）